

坂井輪地区公民館運営審議会会議概要

実施年月日	平成26年度 第1回運営審議会		平成26年6月3日(火) 実施
会場	西区役所 健康センター棟	1階104会議室	傍聴人 なし
出席者	委員		伊藤浩美、菊池三男、郷扶二子、佐藤克子 高木裕、高橋真規子、田村ユキ枝、土田幸子 土屋浩、鳴海丈支、横坂幸子
	事務局	坂井輪地区公民館	山田久美子、渡辺郁夫
		西地区公民館	前田和隆、南部浩美
		黒埼地区公民館	鳴海俊明、小竹憲幸
		小針青山公民館	大科俊夫、渡邊ますみ
議題	1 平成26年度新潟市公民館事業の基本方針について 2 平成26年度事業計画及び平成25年度事業報告(3月末)について 3 平成25年度西区公民館事業評価について 4 その他		
審議された内容について以下に記載する。			
山田坂井輪地区公民館長あいさつ、郷議長あいさつ、新任の土屋委員自己紹介に続き、山田館長から新潟市公民館条例の西区関係分について報告。			
坂井輪地区公民館 山田館長	平成26年4月施行の新潟市公民館条例の一部改正により、小針青山公民館が地区公民館に格上げ。10月施行の予定で休館日の変更に関する規則改正の準備を進めている。		
(1) 平成26年度新潟市公民館事業の基本方針について			
山田館長	資料1により、教育ビジョン、生涯学習推進基本計画、公民館改革宣言に基づいて、5つの基本方針を定めていることを説明。それに対応する形で、5つの重点事業と西区の3つの事業方針を説明。		
(2) 平成26年度西区公民館事業計画及び平成25年度西区公民館事業報告について			
山田館長	資料2-1-1により平成26年度坂井輪地区公民館事業計画を、資料2-2-1により、平成25年度坂井輪地区公民館事業報告を説明。		
西地区公民館 前田館長	資料2-1-2により平成26年度西地区公民館事業計画を、特徴ある事業や昨年度新たな試みとして実施した事業の継続を中心に説明。資料2-2-2により平成25年度西地区公民館事業報告を説明。		
黒埼地区公民館 鳴海館長	資料2-1-3により平成26年度黒埼地区公民館事業計画について新規事業をはじめ主な事業を中心に説明。資料2-2-3により平成25年度黒埼地区公民館事業報告を説明。		
伊藤(浩)委員	平成26年度の事業計画、「(仮称)公民館に泊まろう」は、時間的には何時か。		

鳴海館長	<p>今、考えているのは、休館日を利用して、8月10日、11日に行いたいと思っている。8月10日、日曜日は5時で館が終わり、翌日は休館日なので、お子様は翌日の11時ごろまでにはお返しする。夜、いろいろな催し物をして楽しみたい。ただ4校あるので1校10名程度、4校で40名を募集したい。班編制を各1校2名程度にして、8人の班を作れば1班で大体4校の生徒が一緒になるので、交流もできると考えている。</p> <p>私どものほうは、月1回校長会をやっている。その中で、区域全体の事業というのはなかなか難しいというアドバイスをいただき、企画した。中学校は、ほとんど黒崎中学に上がるので、小学校のうちからこういう交流をすればということ。</p>
伊藤（浩）委員	<p>黒崎地区は、伝統を抱えているものがたくさんあるという感じがする。宿泊のときに何かそういったものをイベントでやられるのか。そうめん流しか。</p>
鳴海館長	<p>今のところは、そこまで細かいところは詰めていない。当然、集まれば夕飯も作ったり、いろいろなゲームをしたり、話し合いをしたり、地域のことを話したり、学校の情報交換をしたりするが、明日また、公民館活動協力員や地域教育コーディネーターの意見を聞きながら、どういう事業が一番いいのか詰めていきたいと思っている。黒崎地区は、木場、黒鳥、板井という小学校が統合して黒崎南小学校になり、農村地域の小学校と市街地の小学校があるので、少し環境が違うが、4校が揃うということはなかなかないので、今回の事業を計画した。</p>
横坂委員	<p>すごい取り組みだと思う。</p>
鳴海館長	<p>事業を実施するのは大変だが、職員が頑張っており、そうめん流しでもよかったのだが、それはそれで、いろいろなことを考えて検討しているところだ。</p>
郷議長	<p>40名の定員で、もし多かった場合は、</p>
鳴海館長	<p>多かった場合は、各校ごとに抽選する。</p>
郷議長	<p>各学校が過不足なく。</p>
鳴海館長	<p>学校ごとに、外部の人も入れて厳正に抽選する。少なかった場合は、半数以下であれば難しいだろうが、1校当たり5名以上、ないし17、8名であれば、実施したい。3、4名だと難しいかという気がするが、状況を見て判断したい。</p>
伊藤（浩）委員	<p>ちなみに黒崎地区に郷土芸能はあるのか。</p>
鳴海館長	<p>郷土芸能はある。郷土芸能は、ここにも書いてあるとおり、大野地区のところで、子どもたちが地域の伝統ということで、取り組んでいる。</p>
小針青山公民館 大科館長	<p>資料2-1-4により、平成26年度小針青山公民館事業計画について特色ある主な事業を中心に説明。資料2-2-4により平成25年度小針青山公民館事業報告を説明。</p>
佐藤委員	<p>ナンバー15の「おもちゃ病院」だが、新聞でも見ることがあるが、小針青山</p>

	<p>公民館では、昨年度は偶数月、今年度は毎月やるということで、ますます盛況だと思ふ。物を大事にすることはいいことだし、手を動かすことは脳の活性化にもなるので、いいこと尽くめだと思ふ。おもちゃのドクターというのは、どういう方がお医者様になるのか。公民館主催だが、おもちゃを直してくださるような方を、地域の方から募集しているのか。</p>
大科館長	おもちゃ病院という団体があって、そういう活動をしている。
伊藤（浩）委員	趣味でそういう活動をしているグループで、そういう仕事を買って出してくれる。
佐藤委員	その方が公民館にお声がけして、立ち上げさせてくださいということに来て いる事業なのか。
大科館長	おもちゃ病院は、前からあったもの。以前は別のところで活動していたよう だが、公民館であれば人も多く集まるということで、当館で活動することにな った。
佐藤委員	そういう方は、シニアの方なのか。
郷議長	シニアの方で、手作りおもちゃがすごく好きな、手先が器用な方とか、昔、 電気屋をやっていた方とか、そういった方々が集まって活動されている。
佐藤委員	恐らく、昨年あたりも話題になったかと思うが、どういった方がドクターな のかと疑問に思った。おもちゃの病院という名称もかわいいし、とてもほほえ ましく、いい事業だと思ふ。ありがとうございます。
郷議長	ほかに何かご質問、ご意見は。
横坂委員	ナンバー9の「発達障がい児童家庭教育学級」の参加者が、2回で54名は多 いと思ふ。今までの受講者から信頼を得てきたものだと感じる。こういう場所 がなかなか現状で、公民館が企画・運営されるのはとても意味あることだ と思ふ。
郷議長	小針青山公民館の人権啓発の発達障がいというのは定着しており、毎年、積 み重ねていると思ふが。
大科館長	続いている。
横坂委員	昨年の講師のお話がとても良かったと複数の参加者から聞いている。
佐藤委員	特殊な分野だし、すごいことだ。
郷議長	では、ほかに小針青山だけではなく、振り返って、坂井輪地区公民館、西地 区公民館、黒埼地区公民館、どこかで何か言い忘れたとか、聞いてみたいと思 うことがあればどうぞ。
佐藤委員	昨年、黒埼地区公民館で、カプラの話題を聞いて、非常に関心を持った。昨 年度、西地区公民館では「キッズらんど」のときに、一部お借りして、大変盛 り上げていただいたが、今年度は、カプラを使ったイベントなどはあるのか。
鳴海館長	イベントとまではいかないが、PRをもう少ししたいと考えている。知らな いお子さんもまだいるので。
山田館長	坂井輪地区公民館の改修工事が終わり、7月19日からオープニングイベント

郷議長	を開催するが、7月20日に坂井輪中学校区まちづくり協議会の主催で、カプラの大規模なイベントをやる予定だ。
佐藤委員	黒埼地区公民館から1万個近くお借りし、さらに講師の方が持ってきてくださり、日本カプラ協会の会長という方から来ていただいて、大々的なカプラのイベントを7月20日に開催するので、ぜひ足を運んでいただければありがたい。
郷議長	高い投資をしたし、あれは子どもたちが喜ぶ。子どもだけではなくて、大人も楽しい。ただ、スペースもある程度なければいけないし、指導者もいなければいけないし、多少手間暇もかかることではあるかと思う。
	指導者が必要だということはあるが、組み立てる喜びと、あれが崩れていくときのカラコロンという音がすごく心地よくて、子どもたちの情操教育にもいい。手も使い五感も使うということなので、ぜひいろいろなところで催し物としてできるといいと思う。
(3) 平成25年度西区公民館事業評価について	
山田館長	坂井輪地区公民館の平成25年度事業評価について、資料3-1平成25年度事業評価シート(坂井輪地区公民館)に基づき、重点事業ごとに総合評価を説明。
前田館長	西地区公民館の平成25年度事業評価について、資料3-2平成25年度事業評価シート(西地区公民館)に基づき、重点事業ごとに総合評価を説明。
鳴海館長	黒埼地区公民館の平成25年度事業評価について、資料3-3平成25年度事業評価シート(黒埼地区公民館)に基づき、重点事業ごとに総合評価を説明。
大科館長	小針青山公民館の平成25年度事業評価について、資料3-4平成25年度事業評価シート(小針青山公民館)に基づき、重点事業ごとに総合評価を説明。
郷議長	4館の平成25年度事業評価について、ご意見を。
高橋委員	西地区公民館の「すくすく学級」からの企画委員希望者が7名ということで、この数字からも分かるように、満足度が高かったのだと思う。「すくすく学級」というのは、何歳代を対象にしたものか。いろいろあると思うが。
前田館長	ゆりかご学級がゼロ歳で、「すくすく学級」がその上と聞いているが、何歳以上かということか。
高橋委員	坂井輪だと1歳と限定した講座などもあるが、幼児期なので2歳代が多いのか、1歳代が多いのか。
前田館長	実際に何歳代が多いかということか。
高橋委員	坂井輪だと2歳児は幼稚園に入ってしまうという声も多く聞くので、こんな

前田館長	に評価が高かったということは、何歳代が多いのかと思ったので。
高橋委員	手持ちの資料でその数字を把握していないので、申し訳ない。
郷議長	はい。
高橋委員	7名の企画委員希望者ということは、皆さんが本当にいい講座を受けて、続けたいという参加者の気持ちが表れている。
前田館長	お子さんを抱えて、自分も企画に参加したいということなので、すごくいい事業ができたのではないかと思う。
高橋委員	講師もかなり上手に話してくれて、それに対して良い刺激をお互いに受けたのかと思っている。
郷議長	今年度もよろしくお願ひしたい。
高木委員	他には、 小針青山公民館にお聞きしたいのだが、今のお話の中で、地域づくり事業に2つ入っている小針の「納涼大会」、「東青山ふれあい祭り」。この2つに関して、連携の取り方はどのような形でされているのか、お聞きしたい。
大科館長	「東青山ふれあい祭り」はコミュニティ協議会を中心とした実行委員会の方がほとんどやっており、私どもはお手伝い。小針納涼大会は、コミュニティ協議会や育成協を主体に、ツアツアクラブという地域のお父さん方が中心になり、私どもは企画の段階で、行政関係の職員、例えば防災の職員が消火器の扱い方を指導したり、健康福祉で体脂肪を測定したり、行政側の出し物も幾つか一緒に抱き合わせてやっている。
高木委員	そうすると、そのような行政的な側面から支援しているという形でとらえてよいか。
大科館長	それもあるし、私どもも実行委員会の組織の中で、公民館活動団体の方も一緒に入るなど、その年によっていろいろな形がある。
伊藤（浩）委員	「ふれあいサロン」というのが、小針青山公民館の中にあり、15年の歴史を重ねて試行錯誤してきたが、最近、学校やコミュニティ協議会など、そういうところとも連携している。「ふれあいサロン」のメンバーも地域の人なので、その人たちも代表が出て行って参加し、公民館の一般の利用者も参加している。踊りの練習とか。
横坂委員	盆踊りの指導をしていただくとか、公民館活動から派遣されている。
伊藤（浩）委員	西地区公民館の「まなび屋」について、どういったシステムになっているのかお聞きしたい。
前田館長	「まなび屋」の事業は、新潟大学の単位の一つにもなっている。大学生が地域子どもたちに学校の授業とは違う学びを提供するというもの。小学校1年生から6年生のごちゃ混ぜで、人数的には20名ほどいる。大学生自らが企画して、それをやってみて、やったうえで、そこで振り返り、気づきを見ながら、また次の企画に反映していくという形だ。時間構成としては2時間くらいで、

	<p>最初の1時間は遊びの時間、後半の1時間は学びの時間。遊びの時間では一生懸命、大学生が遊んでやるということで、1年生から6年生まで一緒に遊ぶことはあまりないが、その中で自然とコミュニティ、人とのかかわり方を学ぶということにしている。</p> <p>私どもが大学生によく言っているのは、まじめに遊んでくださいと。要するに遊ぶときも一生懸命遊んでくれと。その中で問題行動を起こす子がいたときも、ちゃんと入れるようにしながらやっってくださいねというような言い方をしながらやっている。学びの時間では少し学校と違った、例えば、世界の国を知ろうという内容で、大学生が新潟大学に来ている留学生を招いて、学びの提供を行っている。大学生もいろいろチャレンジしてやっていくということで、お互いにとって学びになっている。大学生がこれらのことをやることによって、大学の一単位になるし、公民館の主催事業でもある。</p> <p>大学生なので、非常に荒削りなところがあって、そこは公民館職員が必ず1人つくが、終わった後にアドバイスし、それを踏まえてまたやるという形をとっている。「まなび屋」はかなり長期間続いている非常にすばらしい事業であると思っている。</p>
伊藤（浩）委員	年何回とか、月何回とか。
前田館長	年間で言うと30回くらい。
伊藤（浩）委員	小針青山も3月、子どもの春休みをねらって、「ふれあいサロン」で子どもたちの春祭りをやった。そこにまなび屋の大学生に加わってもらい、実施して好評だった。大学生も楽しかったと。ただ遊ぶだけで、いろいろな遊びの場所を作って、そこに大学生がはまったという形でやったのだが。
前田館長	遊ぶということはすごく大事なことで、小学生だと同じ学年でしか遊んでいないとか、子ども同士のけんかの中に子どもが関われないという話がよくある。まなび屋の保護者からアンケートをいただいたときに、あなたの子どもはコミュニケーション力があるというか、人のかかわりができる、少し特別な存在だと言われたと。要するに、けんかの仲裁ができる子だということを言われて、保護者の方は非常に喜んでいて。そういったことで、遊びのときも一生懸命遊んでくださいという話をしている。そうやって、1年生から6年生の異年齢の中で、世話ができる子どもとか、いろいろ出てくる。それは非常にいいことだなと思う。
伊藤（浩）委員	30回は驚いた。例えば、土曜日とか、日曜日か。
前田館長	毎週木曜日だ。
伊藤（浩）委員	子どもたち相手だが。
佐藤委員	夕方、5時くらいからか。
前田館長	5時から7時まで。夜遅いので原則、保護者の方に迎えに来てもらっている。
横坂委員	何年目になるのか。
前田館長	何年目であると答えられないが、かなり前からやっている。主体になるのが

<p>伊藤（浩）委員 前田館長</p>	<p>大学の1年生から3年生で、特に主体になるのが2年生だ。1年生は、2年生がやっているものを見ている。3年生は、2年生がやっているところに指導を加える。それを順繰りにいくので、今の2年生は、1年生の後半にはきちんと研修をやって、子どもたちに学びについてはどのようにするのだという目標を立てて、年間計画を作るということをやっている。</p> <p>それは、公民館がある程度、主体的責任を持って進めているのか。</p> <p>その年々で異なるが、今回は公民館がまなび屋のOBを講師としてお願いした。</p>
<p>郷議長</p>	<p>「まなび屋」は、いい学びの循環ができていると感じている。先生になっている方もいるし、小学校のときに「まなび屋」に入っていたので、自分も「まなび屋」のスタッフになってみたいという方もいる。大学生のときに「まなび屋」にかかわった方が、親になって今、うちの学校の保護者として、スタッフとして、そのノウハウを活かしながら活動してくださる方もいて、地域でいろいろなところに広がりを持ちながら、やっているということ、最近いろいろ聞き、良い学びの循環を感じている。</p>
<p>土田委員</p>	<p>地元のことだが、この中にふれあい協議会等の地域の方々とコラボしている部分がたくさん見えるけれども、私は地域教育コーディネーターなのだが、平成26年については、特に教育コーディネーターと一緒に何かをしようというのが、この中には見受けられないと思ったのだが。</p>
<p>鳴海館長</p>	<p>平成26年度は学校の教育コーディネーターとのかかわりは、「公民館に泊まろう」については、コーディネーターは全部かわる。それと「立仏あそぼうさい」も絡む。それから、自転車の教室についても当然絡むので、コーディネーターとは積極的に連携していく予定でいる。</p>
<p>土田委員</p>	<p>というのは、この中に学・社・民融合の地域教育コーディネーターという融合の項目がない。コミュニティ活動活性化支援はあるが、コーディネーターと共催とか、コーディネーターを入れるというものが見えないので、それを聞いた。コーディネーターが絡むことは、今、館長が言われたので、自分も知っているが、資料が表に出るときにコーディネーターという字が出てこないの、入れていただければ、自分としても、学校としてもありがたい。この中に交流事業みたいなものが見えなかったので書いてほしいということだ。</p>
<p>鳴海館長 郷議長</p>	<p>検討する。</p> <p>ほかに何か。</p> <p>評価に関しては、各公民館とも、事業の廃止の部分は、使命を果たした事業だとか、まだまだこれからも現行どおり行う事業だとか、また、見直しを伴いながらやっていこうという事業だとか、きちんと参加者のニーズにこたえている評価になっていると感じる。毎回、こうやって参加者のニーズや、これから住民にこういったものを指し示したいという方向性の両方を持ち合わせた事業を続けていっていただければ、私たち、運営審議会としてもありがたく思うし、</p>

	支援していきたいと感じているので、また平成26年度もよろしくお願ひしたい。
(4) その他	
郷議長	今日、予定の議題は、すべて終了したが、お集まりの方から一言ご感想等をいただき、事務局のほうに返したいと思う。菊池委員は。
菊池委員	ただいま評価をお聞きし、1から5の領域について、それぞれ総合的評価をしながら事業を見直している。一つ一つの事業を見ると、すばらしいことをしているのだなということを改めて思い、感謝したいと思う。 特に、公民館で事業をする場合、学んだことをいかに地域に還元できるのかが目当てになる。地域づくり、人づくりをするために公民館が事業をしているわけだから、少しでも地域に還元する。学習を還元するという意味ではなく、その人柄を地域に活かすということで、還元という言葉を使った。「ふれあいサロン」などは立派に地域で活かしているということで、今後、事業がそういうものに活かされ、地域で還元する力に変わっていけばいいなと思っている。
郷議長	初めて参加いただいた土屋委員、感想も含めて、一言。
土屋委員	初めて参加させてもらって、すごくたくさんの方の事業をやらせて、しかもきちんと評価して、見直し、改善を図って、次年度につなげていくというのは、本当にすばらしい取組をされているのだなということを改めて思った。学校としてもかかわっている事業もあり、連携を図って進めていきたいと思っている。
郷議長	田村委員。
田村委員	私は高齢者という立場で、地域の人たちが気楽に公民館で学べるということが少なくなってきたのかと。また、今までのグループがマンネリ化してしまっていて、入りにくいか、あまり興味がなくなってきたのではないかと感じている。公民館を利用して、大きく言えば還元なのかもしれないが、地域と公民館に自分のやっていたことについて協力していくようにできればいいと思って、頑張りたいと思う。
郷議長	鳴海委員。
鳴海委員	各館、それぞれ特長のある事業を展開し、職員の皆さんはしっかり頑張っていると感じている。また、先ほど、黒埼地区公民館の館長から話があった「地域の茶の間」の小林さんは、私のすぐ近所だ。このご夫妻は若いときからお父さんソフト、お母さんソフトのメンバーでもあり、ほぼ同じくらいの年代ということで、付き合いは長い。ご両親が亡くなられてから、茶の間に開放している家を新築された。普通だったら到底そんなことができるような状況ではないのに、すばらしい。ご夫妻でそれぞれ民生委員や、立仏第2の自治会長をされており、いろいろと話を聞いているが、近くの人たちが茶の間に来ているのかと思ったら、電車で来る方も多いのだということで、小針か青山まで夫が自家用車で送迎している。機会があったら、ぜひ寄っていただきたいと思い、少し

<p>郷議長</p>	<p>PRさせてもらった。</p> <p>やはり知っておられる方がお話しくださると、このご夫婦の人となりとか、様子がよく分かって、ぜひ一回、行ってみたいと感じた。</p> <p>皆様の感想をいただき、私からも一言。</p> <p>坂井輪地区公民館がずっとやっていたコミュニティ・コーディネーター養成講座、先ほど、館長のほうからも言われたように、見えない人材を作っていくという本当に難しい講座をこつこつとやっている。いろいろなコミュニティ協議会の研修会や何かで人材が不足しているという話が出たときに、各区でコミュニティ・コーディネーターという方を養成している人たちは、どういう役割を持って、どのように地域に活躍してくれるのだというようなお話がときどき出る。見えない人材を育成する大切さ、先ほどのまなび屋の話もあったが、そこでは今現在、すぐには地域に還元できないような人たちでも、そういった学びをした人たちが、いつかは地域に帰ってきて、何かしらの還元をするというような、人づくりが行われている。人材を育成するというのは長期スパンで見なければならぬことなのだとしたことと、要するに税金、公のお金を使っているのに、本当に人材が足りないという今の各コミュニティ協議会、各地域の声にこたえてほしいという思いと相まって、今回の平成26年度の事業計画を聞かせていただいた。公民館は人づくりの現場、拠点になると思うので、ますます頑張っていってほしいと、運審一同思っている。最後は感想も含めて、つたない進行になってしまったが、これで事務局にお返ししたい。</p>
<p>山田館長</p>	<p>事務局から連絡事項として、坂井輪地区公民館リニューアルオープン記念事業、第65回新潟県公民館大会について情報提供。</p>